



## 本年もよろしくお願ひ致します

小渋川砂防出張所及び工事関係者一同は、洪水や土砂の災害から地域を守るため、本年も精一杯がんばります。

工事にあたっては十分な安全対策を実施しますが、お気付きの点がありましたら遠慮なく連絡いただけますようお願いいたします。

小渋川砂防出張所 0265-39-2301  
大河原床固工群工事連絡協議会  
(代表：大協建設株式会社) 0265-39-1080

現場（大河原床固工群）より赤石岳を望む

## 大鹿村 歳時記

大鹿村内の各地区には、今も様々な行事があります。今回は、1月14日～16日に行われている小正月の行事について取材してみました。小正月とは、旧暦（明治時代初めまで使われていたカレンダー）の正月のことで、昔は1月14日が本来の年越しであったということです。

このような伝統は、これからも地域にとって生活に潤いを持たせるうえで大切なものだと思います。

### おもものづく 御物造り

1年の豊作、家内安全などを願うため、1月14日の朝行われる行事です。栗畑、餅花、稲の穂、マユダンゴ、鬼木等を飾ります。

#### もちばな 餅花

餅を小さく切って竹の筒に入れ、神棚に飾ります。

蕎麦の花とも呼びます。

#### いなほ 稲の穂

のし餅を竹ひごで刺し、稲の穂にみたて、神棚に飾ります。



#### あわばた 栗畑

小枝を束ねて芯を作ります。その芯に、柳の枝にぬるでの木をぶら下げ、「栗の穂」にみたてて差し込みます。これに、1月8日の「若木迎え」（伐り初めとして、山に木を切りに行く行事）で切り出した木を割り、縁起のよい言葉を書き、周りに並べます。これは、門松のように門口に飾ります。



### ホンヤリ様 （「どんど焼き」とも言う）

もとは、宮中の儀式が民間に広まったもので、不要になった門松や飾りなどを燃やし、1年の健康と幸福を祈るものです。「どんど焼き」の「どんど」とは、火がどンドン燃える様を表したものだと言われています。1月14日の晩に行われる行事です。



七日の「松納め」で取除いた門松を集め、竹で芯を作って、古いシメ縄やダルマなどをもち寄り、地区ごとに焼きます。

河合地区では、米の粉で作った飾り物のマユダンゴを焼いて食べます。ダンゴは家族全員、犬や牛の分まで作り、一年間の無病息災を祈るそうです。ただし、十二支からはずれた猫の分は作りません。

中峰地区では、その火で餅を焼いて食べると家内中が健康にすごせると言い伝えられています。家の周囲にこの灰をまくと魔物が入らないとも言われています。

文満地区では、災害にくじけない地域の心意気をしめそうと、厄除けも兼ねて花火の打ち上げが行われています。今年で29回目となります。